

学校教育目標	「チャレンジする子 港北の子」～ひと・もの・ことにはたらきかけ、豊かで明るい心を育む学校～				
	知	徳	体	公	開
学校概要	創立 74 周年	学校長 山口 昭代	副校長 加藤 真理	2 学期制	一般学級：24 個別支援学級：5
	児童生徒数： 778 人	主な関係校： 篠原中学校 神奈川中学校 錦台中学校 篠原小学校 篠原西小学校			

<b>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</b>	<b>〇〇中 ブロック</b>	<b>小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b>
<失敗を恐れずチャレンジする力> <コミュニケーション能力> <思考力・判断力・表現力> <協働して課題を解決する力> <学び続ける力>	篠原中学校 篠原小学校 篠原西小学校	○自己肯定感をもち、未知のことに主体的にかかわる子ども ○他者への感謝をもち、自ら社会貢献する子ども 自分を大切に、他者を認め、課題を解決するためにチャレンジを続ける子どもの育成を目指す。学習場面では、国語科を中心に、「めあてをもち、生き生きとやり取りする子の育成」を研究主題とし、学校の教育活動全般を通して、言語活動の充実にも力を入れる。言語活動の充実により、本校の「育成を目指す資質・能力」の向上を目指す。

<b>中期取組目標</b>	○子どもが実感する「楽しく明るい学校」「やってみたくなる学習」を実現するための授業改善を図る。 ・言語活動の充実・読書活動の推奨と充実・教科担任(分担)制や専科授業の検証 ○コロナウイルス感染防止対策に主体性をもって取り組みながら、自他のいのちの重さを理解し、心身の健康を保持増進する。 ・防疫意識の育成・運動の機会の保障(水泳学習・運動会・外遊びの実施検討)・健康、保健教育の充実 ○いじめの徹底防止・不祥事の徹底防止 ○「信頼の学校づくり」を全教職員で目指し、自らと、児童、保護者、地域にしあわせを広げる働き方改革を実践する。 ○研究研修と面談を適切に実施し、人材育成を重点をかけて行っていく。
---------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	生きて働く知	①長年取り組んできた国語科の研究から、新たに体育科を研究することで、今まで取り組んできた言語活動を生かしつつ課題解決学習をより推進していく。②自分の考えを表現したり発表したりすることで、協働的な学びにする。③教室の学習環境を整え、見直しをもって学べるようにする。
徳	豊かな心	①一人ひとりが安心して自分を表現できる環境の中で自尊感情を育む。②日々の活動の中で、自分の考えと異なる意見や感情を理解できる心情を育てる。③児童支援専任や特別支援教育COと連携し、児童の実態を共有し、問題解決や対応の仕方について人権の立場から、研鑽を深める。
体	健やかな体	①体育学習で、運動する楽しさやできた喜びを実感することができるように場や運動を工夫する。②体育学習カードなどを有効活用し、児童一人一人のめあてにそった指導や学び合いが行えるようにする。③保健の学習を中心に他教科と関連させながら心と体の健康についての学習を深める。
公	自分づくり教育	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を設け、他者との関わりの中で自己有用感を高めるようにする。②学ぶことや働くことの意義について考える学習の場を設定し、年間計画に位置付ける。③自分づくりパスポートを活用し、学びを蓄積することで資質・能力の向上を図る。
いじめへの対応		①学年担任間の繋がりを密にするとともに、専任と指導部との連携を素早く行い、チームで指導・支援していく。②職員会議や4部会を通して、職員が情報交換・共有し、組織的な指導・支援で対応する。③互いの違いや良さを認め合える関係作りのため道徳、人権教育に力を入れていく。
人材育成・組織運営(働き方)		①あたたかい学校づくりを基盤とし、OJTを毎月行いう中で授業力・指導力を高め、学校全体の人材育成を図る。②情報共有システムを活用し、連絡の徹底と会議の効率化を図る。③学校運営組織の機能を確認しながら、各部署の中心職員が学校運営の全体を見通すことができるようにする。
安全・防災		①避難訓練、不審者対応訓練、登校班での下校訓練では、児童一人ひとりがいざという時に適切な行動をとれるように、実践に即した訓練を計画する。②安全・健康教育を様々な感染症防止対策や熱中症予防と関連付けて推進する。③PTAとともに登校班の見直しを検討していく。
児童指導		①気持ちのよい挨拶と思いやりをもって生活し、いじめを許さない態度を育成する。②YPアセスメントを活用し、よりよい人間関係や学級集団を築くために必要なプログラムを実施する。③児童指導の情報を専任と学年・管理職と共有し、迅速に対応するため組織的な連携を図る。
情報発信・地域連携		①学校の様子をHPや学校だより等で発信し、保護者や地域に教育活動の理解を求める。②地域の方にまちの先生として関わってもらい、児童が地域に住む一員として思いをもてる学習活動を展開する。③「GIGAスクール」を活用し、様々な状況下でも学びを止めずに学習保障を行う。
特別支援教育		①個別支援学級と一般学級との連携を深め、円滑な交流学習を行う。②「見通しボード」の活用などユニバーサルデザインを基本とし、集中して学習に取り組む教室環境にする。③支援を要する児童の特性から具体的にアセスメントシートを作成し、実現可能な指導計画の実践・評価を行う。